

No. 3



2001.11

(目次)

- 巻頭言
独立法人化に向かうにあたって…………… 研究科長・学部長 山中康裕 …………… 2
- 在外研究ノート
イギリス便り…………… 教育方法学講座 教授 やまだようこ …………… 3
- 研究ノート
教官から…………… 比較教育政策学講座 教授 江軍武一 …………… 4
院生から…………… 教育認知心理学講座 佐藤 悠 …………… 4
- 事務局より
「教職希望者の夢を叶えるために」…………… 専門職員 藤井芳史 …………… 6
- 図書室より
「雑誌分數収納のおことわり」…………… 図書科長 山本 聡 …………… 6
- 臨床教育実践センターから…………… 臨床心療実践学講座 教授 藤原静紀 …………… 6
- 心理教育相談室から…………… 附属臨床教育実践研究センター 助手 山森路子 …………… 6
- 諸記録…………… 7
① 入試結果 ② 学位授与件数 ③ 人事異動 ④ 招へい外国人研究者の記録
- 諸報
新任事務補位員紹介…………… 8

巻頭言

「独立法人化に向かうにあたって」

教育学研究科長・教育学部長 山中康裕



2001年度、つまり、21世紀最初の研究科長・学部長として、本ニュースレターの幕開けを祝って、私が今考えていることの一部をここに記してみます。

すでに新聞報道その他でご案内のごとく、また、長尾真穂氏が先の評議会で明らかにされたごとく、わが京都大学は平成16年（2004）年度にいわゆる独立法人化を実現することになりました。独立法人化と一口にいっても、その内実は、実にさまざまで、教職員の身分や、国家予算との関係性など最も執拗部分すらいまだ詳細は明らかではありません。でもむしろ、大学運営の真の学問的発展を期待出来るあり方、地域・産業・社会との関係性などもっと改革の実を明確にする方向性をこそ模索せねばなりません。しかし、にもかかわらず、独立法人化の歩みを始めることが大きく謳われたわけでありまして、その引き金となった、漢山文部科学大臣の、いわゆる「世界水準のトップ30」の重点化と、それ以外の切り捨て、ということが目前の焦点となっております。つまり、これは世界的水準において国際競争力をもった大学を育成し、それに劣らないものを就職先としていこうとの、極めて大胆ではありますが、一方極めて大ざっぱな取り組みなのであります。が、学問分野にはいわゆる国際競争とか、序列をつけることは全く関係のない分野もありますし、いわゆる経済界とか産業とかとの関連の無い全く無い、つまりコマースベースとは無縁の学問、たとえば典型的な例をあげれば哲学とか、純粋数学とかいった学問があります。いやもっと近くのわが教育学研究科の諸学も考えようによっては、将来の有能な人材を育てるわけですから、おおきな財産の元を再生産することには繋がりますが、それでも学問本来の在り方なり根本のそれは、まったくそういった競争や数量とは相入れないものであります。これらの一見無益

な、その実人間の根本を考えていく学問の自由が真に守られてこそ、人間の文化や幸福が維持され発展していくのです。単なる功利的な計算ではなく、人類や生きとし生けるものすべてにとっての幸福とは何かなど、この地球を包む全宇宙系の真の幸せと安寧をこそ考えていかねばならないのです。そうした、技術的なものや、数字で測れることだけが重視されるようなことがあってはならない筈です。その意味でも、わが教育学研究科や教育学部が果たさねばならないことは幾多ある筈で、いまこそ、その真価を発揮すべく、頑張らねばなりません。前学部長がご努力頂いていた頃に比べて、大巾に状況が違って来た今、総合情報メディアセンターや融合センターなど、理系の大型プロジェクトがどんどん実現されて行く中で、文系のとりわけわが教育学系の建物を含みいわゆる「第7ステージ」の移築計画が浮いてしまっています。教職教育を含む全学教育のなかで我が研究科が果たしている役割は決して小さくないのに、そして、たとえば臨床心理学をはじめとする現代の最先端の分野での活躍や実践の意思があるにも拘わらず、現状では教室の数も広さも設備もまったく不足しています。現在の建物は、昭和40年（1965）年以來、36年を経過してすでに老朽化しているにも拘わらず、その移築改築計画は大幅に後送してしまっています。これではいけません。皆さん、私たちは率先してこの現状を直視し、教壇下にふさわしい研究教育体制を目に見える形として考え、これらの改善や根本的な建設計画を要求し、かつ実現していかねばなりません。及ばずながら私は一身をささげる覚悟でこれらの困難に取り組み理想実現に邁進するつもりであります。どうか、是非みなさまのご協力をいただき、この現状を大きく打開していくことではありませんか。

在外研究便り



イギリス
便り

教育方法学講座 教授

やまだ ようこ

私は今、イギリスのオックスフォード大学にて在外研究をしています。「生涯発達観と生命観にかかわるイメージ描画調査」の日英比較調査をすることがおもな目的です。

オックスフォードは約10年ぶりですが、景色はほとんど変わっておらず、ここにいると時間の単位が変わります。ニューカレッジが17世紀建立というのですから、新しさの基準も変わります。ほんとうは千年単位の京都のほうが古いのですが、ここでは古いものを頑固に守ろうという意志と誇りが徹底しているのです。大学も古い建物用途を変えて使っているの、一見すると民家なのか大学の一部なのかわからないことが多いです。京都でいえば、町中に散在する江戸時代に建てられた建物、土間と中庭のある奥行き深い深い民家などを修復して、大学の学部や研究所や図書館にしているようなものです。

私が住んでいる家もウルフソン・カレッジの宿舎ですが、マロニエや林檎の木が繁る緑の庭園のなかにある、ヴィクトリア朝時代に建てられた古い赤レンガの藁のからまった家です。歩いて20分ほどのところにはルイス・キャロルがアリスに話を聞かせたという広い牧場があります。そこで野ウサギが駆けていくのを見ました。ウサギの穴におちこめば、そのままアリスの不思議な世界にさまよって行きそうです。数百年の大木の影をうつしながら木漏れ日が光る川はゆったりと流れていて、その川にあそぶ鴨や白鳥の群れを見ていると、ルイスが何年たっても生き生きと思い出すという「ゴールデン・アフタースーン」と呼んだ景色が今もすぐそこにそのままつづいているようです。

庭園を含めた環境の美しさとともに、知的遺産を大切にしている歴史感覚と価値観には頭が下がります。どっしりと黒光りする机と椅子が備わったボードリアン・ライブラリーには、日本の国会図書館のようにイギリス中の印刷物が集められ、すべ

て実物で新聞からボルノ雑誌までという徹底ぶりです。分館の日本研究図書館には、西尾市史、磐南市史、豊明町史などマイナーな地方史も揃い、京大百年史や河合兼雄著作集もちゃんとありました。

しかし、もちろん良い面だけではありません。オックスフォード大学では、教官も学生も伝統的なカレッジと、専門分野の学部・大学院の両方に所属する二重システムになっています。約35あるカレッジは教官や学生の居住地で、美しい庭園や食堂をもち一部の教育も行われています。研究は、専門の学部（大学院も含む）で行われます。大学のシステムもまた建物と同様に新旧継ぎ接ぎですからきわめて複雑、事務手続きも煩雑でひとつの仕事をするのにおそろしく時間がかかります。

私が所属している実験心理学部でも、カレッジの広大な庭の手入れの費用と労力の配分を、もう少し最新の研究設備や職能におきかえたいと思うことが多々あります。学部は手狭で慢性的部屋不足はわが研究科以上かもしれません。私は今、サバティカルで不在の教官の研究室を中国人の助教と共同で使っています。教授の仕事も多忙で大変なようです。オックスフォードの教育は、チュートリアルの伝統を残しており個人指導が中心なのですが、「先生が忙しすぎて、もっとも会ってもらえない」と大学院生がこぼしていました。ただし、大学の授業期間は一年の約半分だけ、日本の大学の持続的なあわただしきとは比べものになりません。心理学の大学院生は毎年約20人、早い人は3年でPh.D.をとりますが、博士論文のために要求される実証研究の数は多く、相当に詰めて自分の研究をしなければなりません。早くから専門を絞るので、発達心理学の大学院生でもエリクソンやブルーナーを知らないほど知識は偏っているようです。環境も教育も、そのよあししの比較は簡単には論じられませんね。

(2001.9.30記)



多文化社会の 価値教育について

比較教育政策学講座
教授 江原 武一

この4、5年の間、高等教育の比較研究に並行して、多文化教育とか宗教教育といった多文化社会の公教育における価値教育を比較の観点から調べる共同研究に参加してきた。私のフィールドは主にアメリカ合衆国である。

価値教育とは、行動の一般的な指針として、または意思決定をしたり信念や行為を評価したりする際の判断基準として作用する原則や基本的確信、理想、基準、生き方（ライフスタンス）を教授したり学習することを意味する言葉である。この価値教育には多文化教育や宗教教育の他に、市民性教育や道徳教育、それから学校の校風や課外活動、学習の共同体としての学校生活、地域社会との連携などといったインフォーマルな教育の側面も含

まれる。ポイントはいずれの教育も複数の価値の共存を想定していることにある。

他の教育と同様に、公教育における価値教育の具体的な内容は国や地域によって非常に違っている。一般的には欧米等の先進諸国では市民性教育や多文化教育、あるいは自律的な価値判断を育成する教育という側面が強く、アジア等の発展途上諸国では道徳教育や宗教教育、あるいは国民統合の手段としての教育という色彩が強い。

多文化教育については、江原武一編著『多文化教育の国際比較—エスニシティへの教育の対応』（玉川大学出版部、2000年）としてまとめた。宗教教育の研究成果も公刊できたらと考えている。

20世紀は「教育の世紀」といわれ、日本を含めてどの国でも学校教育が普及した。しかしいろいろな面でひずみやあつれきも目立つようになり、そのあり方が根柢から問われるようになった。こうした子どもも危機的な状況を改善するために今とくに求められているのは、子どもの基礎的な学力の発達に加えて道徳的・情動的発達を促す学習環境を整備することだと思われる。



教育認知心理学講座D3
佐藤 弥

僕の現在の研究テーマは、表情認知の仕組みを明らかにすることであり、脳波やfMRIでの脳活動計測を用いる認知神経科学的なアプローチで取り組んでいます。認知神経科学では、人の心の働きを、脳構造に直結した情報処理システムとして解明していくことを目指します。このアプローチでは、健康な人だけでなく、脳損傷の患者さんの協力を得て心理実験を行うことも重要な研究の一部になっています。現在、医学部の先生方と共同で、こうした研究を行っています。

今年の研究を1つ紹介します。脳の奥に扁桃体という小さな器官があるのですが、その部位に障害のある患者さんに参加して頂いて、表情認知について検討しました。扁桃体は、これまでの研究

から恐怖などの不快感情の喚起に関わることが示されている部位です。いろいろな表情の認識について検討した結果、患者さんでは、恐怖と怒りという強い不快表情の認識に障害があることが分かりました。他の表情の認識は、正常でした。障害の性質についてさらに調べたところ、こうした表情は不快ではなくむしろ快の表情として認識されることが分かりました。この結果は、恐怖・怒りの認識に、扁桃体という脳内の小さな神経核が重要な役割を果たすことを示すものです。また、それぞれの表情によって、認識に関わる脳部位が異なることや、他者の表情を認識するのに必要な神経機構が、自分自身の感情体験に関わる神経機構とオーバーラップしていることなどを教えてくれます。

表情に関するこうした研究は、現在、毎月新しい知見が報告されるほど活発な分野であり、文献を読んだり実験結果をまとめたりするのに忙しい毎日です。ですが、楽しい仲間達や優しい先生と一緒に、わいわい楽しく共同研究を進めています。

「教職希望者の夢を叶えるために」

私が担当しているのは、全学の教育職員免許状取得希望者への様々な支援です。窓口担当の方と協力して各種相談に応じたり、いろいろな助言をしています。その内容は実に様々であり、できるだけ丁寧にと思っていますが、なかなか思い通りに行かないのが現状です。

既に平成10年入学者から適用の「介護等体験」導入、平成12年度入学者から適用の新教育職員免許法（新法）とたて続けに大きな制度変更があり、実務量がこれまでに大きく増大しています。なかでも、新法の教育実習、介護等体験の履修が困難に陥るをかけています。

学生諸君が免許状申請をするまでには、様々な困難があり、教職を目指していたが断念することもままあります。こうした苦労を経て、教員免許状を手にしても、すぐに職に就けるという訳にはいきません。なしろ、最近では教員採用数はほんの僅かで、京都でも教職に就けるのは希望者のうち一握りにしか過ぎません。

こんな厳しい状況のもとでも、教職に就こうというのは、子ども（人）が本当に好きな人であると思います。こうした熱い思いを持っている学生諸君には、それに見合う対応を心掛けています。こうしたことから、つひ力が入りすぎることもあり、説明が冗長と聞こえることもあるのではと密



専門職員
藤井 芳克

事務室より



かに心配しています。このことは迷惑なのかも知れませんが決して将来損はさせないと思って対応しています。窓口での対応は小さなことですが、様々な経験をすることで、教師として一味違う役割を發揮してくれるのではないかと期待しています。

単に勉強だけ考えれば、京都大学の中でこれほど関心と合わない仕事も珍しいのではないかとと思うのですが、日本の教育界を背負う一員の責成に協力しているという大きなところで意義を感じていきたいと思っています。

なお、教職を巡る状況の詳細については、「2000年度自己点検・評価報告書」3. 2 教職活動（2001年3月発行）をご覧ください。

「雑誌分散収納のおことわり」

図書室では、今夏、地下書庫内雑誌の一部分移動を行いました。移動させたのは1987年以降の一部の私立大学等の紀要類で、移動先は地下閉架書庫です。その結果、雑誌紀要類は「1987年以降の分」、「1987年以降の一部の私立大学等の紀要類」、「1986年以前の分」の3か所に分散収納されることになり、さらにその一部は閉架書庫になるという、利用者の方々にはたいへん不便をおかけする状況になってしまいました。これは書庫内が高圧のもと、緊急避難として、地下閉架書庫に収納されていた、さきわめて利用の少ない資料を博物館内仮書庫へ移動させ、その後1987年以降の一部の私立大学等の紀要類1,800冊を移動させたものです。そして残った雑誌を均して、継続雑誌にかるうじて2年分程度の隙間をつくりました。

書庫内検索をされている利用者の皆様はすでに存じのように、ほとんどの箇所が棚の端から端までいっぱい、のみならず、図書が並んでいるその上のわずかな隙間にも積み重ねられ、見上げれば書庫の上、書庫の屋上ともいえる所にもブックエンドを支えにして並べてあります。また窓際や柱間など書架が設置できる箇所には可能な限り設置され、これ以上収納のしようがありません。現在、教育学部には137,000冊余の蔵書があり、貸出中の図書を除いてそのほとんどがこの書庫に納められて



図書部長
山本 修

図書室より



います。書庫の計算上の収容量は116,000冊ですから、こうなるのも無理からぬ話です。過去に書架の一部を集約書架にして応急的に浸しましたが、そのために図書が分類期に並んでおらず、利用者の方々を書庫内で迷わせる状況になっています。このような状態では、利用者にとっては検索しづらく、図書職員にとっては整理・管理が十分にできません。結局は図書室機械の低下で抱えています。昨年度、総合博物館内に仮書庫として1室借り受け、18,000冊分程度の書架が確保できましたが、文学部からの移管図書や特殊文庫を収納した残りは約10,000冊分です。ここへは現書庫から図書の一部移動を計画していますが、現在の異常ともいえる収納状態を維持して、せいぜい2年分だけかき寄せよう。図書室の状況、事情をご理解いただきますよう、お願いいたします。



臨床教育 実践研究センターから



臨床心理実践学講座
教授 藤原 勝紀

本センターは、わが国最初の有科棟施設「心理教育相談室」を母胎として出発した。平成8年12月1日付で九大から赴任早々のことで、翌春に東山教授が、9月から伊藤助教授（現教授）が兼任した。当初は兼任として、平成11年度に新規設置された臨床実践指導研究分野に籍を移して今日に至るという僅ただしいう年数だった。

現在、本センター員を中心に、大学院教育の一環としての心理教育相談活動と大学院連携及びリカレント教育等に着実な実績をあげ、名実ともに全国をリードする伝統ある存在を堅持し、創造的

に発展している。それだけに今後は、学問研究と臨床実践活動を基盤に発信する質的な動向が、この領域のみならず大学の進むべき方向性とも連動する極めて重要な責任があることを痛感する。

現在、科研費補助による「心理臨床家教育におけるスーパーヴィジョンの方法と成果に関する多角的検討（代表東山）」・「心理臨床家の養成における臨床実践指導に関する開発的研究（代表藤原）」が進展しているが、本センターの方向性は、より高度な教育研究指導と臨床実践指導の在り方に方向を見出しつつある。このことは、従来の大学院教育研究を基盤に、さらに大学院重点化の趣旨を具現する方向にあると思われる。研究科及びセンターが果たすべき学問研究と教育機関として期待される高度な位置を再確認していく具体例だと考える。

いままでもなく、心理教育相談室を中心とした臨床実践活動は、それ自体が利用者からの実地的な他者評価はもとより、地域社会に開かれた相談機関としての第三者評価を基盤に成り立つ実績である。そうした臨床実践に携わる心理臨床家の養成と共に、その指導者養成と福祉開発にこそセンター及び研究科の存在理由があることを、大学が大変革期を迎えるいま痛切に感じながら、臨床実践と研究の統合という高度で必然的な学問的初心を、ふと高邁にも自覚するこの頃である。



心理教育 相談室から



附属臨床教育
実践研究センター
助手

山森 路子

心理教育相談室は、一般市民に開かれた「心の相談」の窓口として1953年に開設され、以後、臨床心理学系の大学院生たちが中心となって相談活動を行ってきた。臨床心理学を学ぶ者にとって、指導者の下でこうした心理療法の実践の場を持つことは不可欠であり、また実際このような現場の経験を通して学ぶことは何物にも代えがたい価値をもっている。

1980年に国立大学で初めて「有科」の相談室として認可されたと聞いているが、「心の相談」にお金を払うという意識が定着していなかった当時では、相当思いきった動きだったのではないかと、思う。現在では60名以上の相談スタッフ（大学院

生）があり、計14室の面接室が用意されて、相談室としてはかなり大規模な方と思われるが、近年の相談件数の増加は驚くばかりで、面接室の使用状況などを調整しながら新たな申し込みを受理していくためにスタッフ一同心を砕いている。ちなみに昨年度の総相談件数も4,700件を超える結果となっている。

相談に来られるのは小さい子どもから年輩の方にいるまで実にさまざまである。相談内容も勿論さまざまであるが、筆者個人の実感としては、決して特殊な悩みを抱えた特殊な人たちというわけではない。それぞれに問題を抱え生きてきた人たちが、人生のある時期や出来事をきっかけに、心の内面や人生のことを話せる場所を語るのかもしれない。迷いながらやっとの思いで相談室に辿り着く人、このような場所で何ができるのかと思いを寄せながら来られる人、なかには「ここへ来てと時間の流れが違いますね」などと言って60分という面接時間を大事に受け止めて来られる人もいる。相談室という場が、来訪者にとって、またスタッフとしての大学院生にとって持つ意味を重く受け止めるながら、ここで行われている仕事について周囲の方々に理解していただけるよう努力していかなければと思っている。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

諸記録

● 平成14年度入試結果(平成13年10月1日現在)

・教育学部

日程等	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
前期日程	40				
後期日程	20				
第3年度編入学	10	60	59	9	

・教育学研究科

課程等	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
修士課程	研究者養成コース 教育学専攻	18			
	臨床教育学専攻	14			
	教育学専攻(専修コース)	10	57	57	11
	臨床教育学専攻(第2種)	若干名			
博士後期課程編入学	若干名				

● 平成13年度学位授与件数(平成13年10月1日現在)

学位名等	授与者数	
学士	教育学科	
	教育心理学科	
	教育社会学科	
修士	教育学専攻	
	臨床教育学専攻	
	教育学専攻	
博士	課程博士	2
博士	論文博士	1

● 平成13年8月20日付人事



● 平成13年9月1日付人事



● 招へい外国人研究者の記録

客員(外国人)教授

ワイドマー
Widmer Peter

現職 ラオン流精神分析家(関東)
 受入講座 附属臨床教育実践研究センター
 臨床心理実践学
 受入期間 13.9.17~14.1.31

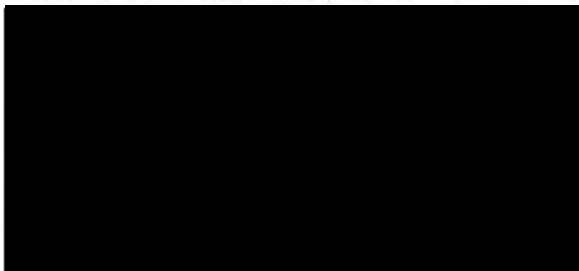
招へい外国入学者

ワシ
林 娟娟

現職 厦門大学外文学院日本語学科
 主任・助教授
 活動内容 日本語における文化的内包
 及び日本文化の歴史的研究
 受入講座 教育学講座
 受入教育 北本雅史 教授
 受入期間 13.9.26~14.3.31

諸報

● 新任事務補佐員紹介（「」内は本人の抱負）



編集後記

お忙しいところ厚稿をよせてくださった執筆者の方々、ありがとうございました。そして、本紙を最後まで読んでくださった皆さんに感謝しています。1年前に創刊したニュースレターは、意見委員長の活躍によって、全体の構成・レイアウトをはじめ、印刷会社との交渉などの難題を乗り越えて軌道に乗り、3号を迎えました。『研究ノート』は3系の教官と院生を一巡しました。つぎは学部生の出番でしょう。残された課題は、もっと多くの人に読んでもらうにはどうするかです。本紙はバックナンバーを含めて、多めに印刷され、教務棟窓口と図書室におかれています。本学部・研究科に関心をもつ学内外の研究者、学生、受験生、OBの手に渡るように、ご自由にお持ちいただき、お配りいただければと思います。さらに、本紙をもっと魅力的なものにするための皆さんの投稿や意見をお待ちしています。

（K記）

京都大学教育学研究科
・教育学部広報委員会(平成12年7月～)

委員長 高見 茂 助教授
(比較教育政策学講座)

委員 山中 憲裕 教授
(教育学研究科長・学部長)

委員 田中 耕治 助教授
(教育方法学講座)

委員 横見 孝 助教授
(認知心理学講座)

委員 宮谷 浩 事務長

委員 山根 大和 庶務部長

事務担当

教育学研究科・教育学部庶務課
TEL. 075(753)3003

表紙デザイン 山田旬子